

行政視察報告

○日時 平成20年7月14日～15日

○行き先 岐阜県多治見市 (有) 廿原ええのお
岐阜県大垣市

○テーマ

1. 「(有) 廿原ええのお」のむらづくりについて
2. ものづくりネットについて



無農薬栽培により「めだか」が泳ぐほ場を視察

1. 「(有) 廿原ええのお」のむらづくり

(1) 地域の沿革と概要

「(有) 廿原ええのお」が活動する廿原町は、人口165名の、周囲を山に囲まれた盆地上の小さな集落です。

(2) むらづくりの動機・背景

廿原地区は、農業基盤の整備が進まず効率の悪い自給的農業が行われているだけでした。

そのため、若者は集落外へ出てしまい、農業従事者の急減、耕作放棄地の拡大により、将来的には限界集落となることが想定される状況となりました。

この危機的状況を打破するために、市や関係機関の支援を得て、平成8年から農村活性化住環境整備事業によるほ場・環境・住環境整備に取り組みと共に、集団営農を平行して行い、その成果が認められ、東海農政局長

賞を受賞しました。

また、余剰残地の有効活用、最終処分場の受け入れをし、そこからの収益も資金調達に回して、個人負担を少なくしました。

(3) むらづくりの現状

特に我々の目を引いたものは「不耕起冬期湛水栽培」の田んぼの状況で、耕さない田で美味しいおこめができ、生き物いっぱいしの里山を守っています。

ただ、省力化には効果的ですが、農薬を全く使わないので、除草、収量などの課題もあります。

2. 「ものづくりネット」

平成8年にこの取り組みがスタートしました。

この地域には、大企業が存在し、市場における競争力は強いものとなっています。

しかし、今後地域間の受注競争が激化するという想定の中で、

○いかに企業情報をオープンにできるか

○企業の売りの表現

○より詳細な加工形態を登録したいとする要望

があるか

を目標にして、詳細なデータベース検索ができるよう、得意分野・異色技術・新技術の紹介など情報の提供により、企業間の交流を深め、日本一のものづくりを目指しています。



大垣商工会議所職員からの説明